

コニカミノルタ株式会社

リフレッシュ休暇 / ストック休暇



2003年の経営統合を受け、新制度を再構築

現在の人事制度は2005年に策定していますが、その背景には2003年に実施されたコニカとミノルタの経営統合がありました。新会社の発足に当たり、会社と労働組合が協力して新しい制度を構築する必要があったのです。

また2005年には、次世代育成支援対策推進法が施行されました。民間企業も次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成されるための環境整備を求められることになったのです。こうした要請に応える必要もありました。

この2つの“必要”に対し、会社としてあるべき

休暇のあり方を追求して人事制度を設計しました。その中で「リフレッシュ休暇」や育児休職、入院治療、療養または通院、看護のための「ストック休暇」という制度を設けました。

100%近い利用率の「リフレッシュ休暇」

「リフレッシュ休暇」は、勤続10年から5年ごとに5日または10日付与される休暇です。さらに10、20、30、40年の節目の年にはリフレッシュ資金が付与されます。休暇は4月度から1年以内、つまり翌年3月までに消化してもらうのが原則ですが、実際の運用では半年の延長を認めています。

延長を認めている理由は利用時期にあります。最も多い利用時期は8月と3月、つまり子どもの夏休みと春休みにあたりますが、リフレッシュ休暇が与えられた年の8月に多忙の人は、夏休みの利用ができません。そこで翌年の夏休みに休暇を取得できるよう半年の延長を認め、制度を利用しやすくしています。

利用形態は家族と過ごす人が圧倒的に多いようですが、特に会社で指定しているわけではなく、各人自由に使っています。

リフレッシュ休暇は「今年はAさんとBさん、来年はCさんとDさん」というように上司を含め職場内で周知されており、取得しやすい風土ができています。現在では100%近い消化率になっています。

ここに注目!! (部分とリンクしています)

- 導入に至るまでの背景
- 導入の目的
- 導入のプロセス
- 導入後の効果
- 今後の目標

育児休職に使える年次有給休暇をストック

育児休職は子が4月1日時点で満1才の誕生日を迎えた後の4月末日まで、または子が満1才の誕生日を迎えた後の6ヶ月後まで取得でき、女性従業員だけでなく男性従業員の取得も推進しています。管理職に対する啓蒙活動を実施する他、労働組合にも協力してもらい、組合機関誌に育児を楽しむイクメン社員を紹介する記事を掲載してもらっています。

当社の年次有給休暇は入社初年度は15日、2年目から年20日で、2年間有効で最大40日となりますが、40日を超えて失効する年次有給休暇のうち、さらに40日を「ストック休暇」として別枠で積み立てることができます。

育児休職は無給ですが、この「ストック休暇」を育児休職に使うことができるため、「ストック休暇」中は有給となります。

「ストック休暇」は2005年の制度スタート時には本人の傷病や育児休職、家族介護での利用を想定していましたが、今ではワーク・ライフ・バランスの充実に寄与するため、本人や配偶者の不妊治療、インフルエンザの流行による学級閉鎖時の子どもの付き添いなどのケースでも利用が認められています。

従業員データ

働くための充実した制度を整え、実際に利用できる環境を整えた結果、性別問わず長期雇用を実現した。

	従業員数	平均勤続年数
女性	1,234名	20年10か月
男性	6,356名	20年4か月
計	7,590名	20年6か月

※2014年1月時点

人事部 労政グループ 係長
大竹 淳さん



会社データ
【事業内容】電気機器
【従業員数】7590名(2014年1月現在:単体)
【年次有給休暇の取得率】60%
【年間休日数】125日
【URL】http://www.konicaminolta.jp/

制度活用事例



人事部 人事労政グループ
人事サービスグループ 係長
田中 芳則さん
[ストック休暇 /
リフレッシュ休暇]

出産後に妻の体調がすぐれず、「ストック休暇」を利用

2006年11月に子どもが生まれたのですが、産後、妻の体調が悪く育児ができる状態ではありませんでした。そこで義母に手伝ってもらいながら、私自身も仕事と育児を両立させようと数か月間頑張ったのですが、どうにもならなくなりました。

上司に相談したところ、「男性も「ストック休暇」を利用した育児休職がとれるから、活用したらどうか」というアドバイスを受け、2007年4月1日から「ストック休暇」を利用しました。ラッキーだったのは、行政から0歳児が入れる保育所を紹介してもらえたことです。結果的に2か月半の「ストック休暇」を経て、職場に復帰しました。

また今年、勤続15年の「リフレッシュ休暇」を取得しました。かつて「ストック休暇」をとって育てた子どもも小学生になり、「リフレッシュ休暇」を利用して家族旅行を満喫してきました。